

佐賀小学校

『人間を大事に』

夢や志をもち、やさしく、
たくましく生きる児童の育成

校長 平林 也奈

◆はじめに

今年度は、6名の新入生を迎え、児童数75名、学級数8(通常学級6、特別支援学級2)、教職員数15名でスタートしました。

学校の教育目標は、さらに佐賀中学校との連携を進めることを意識して『「人間を大事に」く夢や志をもち、やさしく、たくましく生きる児童の育成』にしました。そこに迫るために、『自立』(たくましく生きる)、『共生』(ともに生きる)、『貢献』(人の役に立つ)をキーワードに教育活動を展開しています。

しかし、今年度はコロナウイルス感染症の影響で臨時休業となり、子どもたちと教育活動がスタートできなかったのが5月11日となりました。そんな中でも、子どもたちは学習・生活に頑張りを見せ、保護者の方々は惜しみないサポートをしてくださいました。まだまだ通常の

活動になったとはいえませんが、そんな中でも連携(つながり)を意識しての取組がスタートしています。

「つながり」

みんなが

みんなに

やさしい佐賀小

その取組の一端を紹介いたします。

◆黒潮町との連携(つながり)

コロナ禍の中、5月1日に始まった黒潮町のプロジェクト「Wiier」くあなたに賛同し佐賀小でも取り組んできました。

子どもたちや教職員のイラストや心のこもった言葉が書き込まれ、玄関やプールのフェンスに掲げました。これらの取組を受け、児童会長が思いを綴ってくれました。

青い旗

5月11日に休業が終わり学校が再開した。久しぶりの学校に行くとき、玄関に青い旗があった。ぼくは、最初何を書いているのかなと思つた。青い旗には、Wiierと書いていて、その周りには、

乗り越えよう、がんばろうと、先生二人ひとりのメッセージが書いてあった。みんながんばって乗り越えようとしてるんだなあと思つた。

Wiierに込めた意味は、未来や意志、また、応援したい、ともに頑張ろうという意味だそう。ぼくも、頑張ろう、応援しようと思つた。

ぼくたちも学校で書いた旗に、今を伝えようや頑張ろう、イラストを書いた。ぼくはその思いや言葉が伝わればいいなと思つた。

佐賀小学校に集う仲間はもちろん、黒潮町全体がつながり、1日も早い終息を願っています。



◆保育所との連携(つながり)

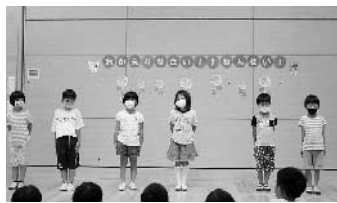
昨年より県教育委員会の指定を受け「保小連携・接続推進事業」の研究を進め、2年目となりました。

活動の一つとして6月1日には、たくさんの参観者

がいる中、スタートカリキエラムの研究授業を行いました。緊張した中でも安心して学んでいる姿が見られました。「じしんがきたらどうする」について学び合い、

自分の考えを表現することができました。保育所での学びを小学校につなげることで、次の日の避難訓練でも一生懸命頑張ることができた1年生でした。また、7月29日には、「おかいりなさい1年生」を行いました。保育園児との交流の中、発表を通して1年生

になった姿を表現し、園児の発表ではリズムを取りながらあたたかく見守る姿を見せてくれました。



◆中学校との連携(つながり)

佐賀小中学校では、本年度から県教育委員会の指定を受け、「中山間地域における特色ある学校づくり推進事業」に取り組んでいます。

この事業は、「佐賀小中学校が地域や保護者の方の声を学校教育に取り入れ、小

学校と中学校が連携しながら、地域や社会のために自ら考え行動することのできる子どもたちを育てていく」ことを目的としています。具体的には、

- 学校運営協議会を設置する。
- 小中学校9年間を通して、生活科・総合的な学習の時間に地域の方に協力してもらい学習する。

- 保育所とも連携し、保小や小中で連携した行事などをを行う。
- 一人ひとりの成長がわかる埼玉県学力学習状況調査を行う。

などを実施していきます。



これからの佐賀地域を担っていく子どもたちのために、たくさんの連携(つながり)を大切にして、「みんなが みんなにやさしい佐賀地域」をみんなで作っていきたくないと考えています。

南郷小学校

「いつも笑顔で元気です」

校長 坂本 恭美子

◆命はひとつ

国道56号線 弘野団地下の横断歩道付近に、今春、2つの看板が設置されました。



「命はひとつ」「コロナに負けるな(のちにWi-Fi)南郷小学校」です。「命はひとつ」を作成したのは本校の児童数名。春休みに学校に来て作成しました。「どんな看板にしたいの」と尋ねると「命はひとつ」と真剣な顔で即答。

子どもたちを取り巻く社会は、新型コロナウイルス感染症のみならずさまざまな課題が山積しています。しかし、今後いかなる困難にあっても果敢に生き抜く力強さ、しなやかさを身に付けてほしい、そう願い「命を守る・心を育てる教育」を教科横断的に取り組んできたその片鱗が子どもたちの姿から見えたよううれしく思った瞬間でした。

本校では平成30年度から高知県安全教育推進事業を受け交通安全・生活安全教育に取り組んでいます。生活安全教育は主に「身の回りにある危険を予測し自ら回避すること」がテーマです。各学年で既存の防災学習と関連付け系統的に学習しています。

7月10日は「命を守る参観日」でした。各学年が「地震津波」「土砂災害」「生活安全」「交通安全」の授業公開を実施しました。授業後の講演会の講師は、安全インストラクターの武田信彦さんです。武田さんは、子どもの安全を守るには3つの力が欠かせないと提案されました。それは「子ども

の力」「自分を守るための予防や対処などの力」「大人(保護者)の力」「身近な大人が子どもを守り、子どもがもつ身を守る力を引き出す力」

「地域の力」子どもや保護者だけでは対応できない範囲をサポートする力」です。武田さんは講演後、本校の3つの力を高く評価してくださいました。

地域の力の一つ、南郷小見守り隊の皆さんは、毎月

2回、なかには毎日子ども登校を見守ってくれます。「おはよう。元気に学校行きよるかね」と声をかけてくれます。見守り隊の皆さんの温かい声に自然と顔があがりランドセルが軽くなると言った子どももいました。保護者の皆さんも月交代で見守り活動を継続しています。

子どもは大人から温かい眼差しを受けることで、自分がかげがえのない存在だと気づきます。見守り活動は子どもの心を育て、命を守ることにつながっています。

「災害が起きた時、ボランティアで駆けつける大人もかっこいいが、災害や事故が起これないように日頃から見守ってくれる大人もかっこいい」と武田さんの言葉が見守り隊の皆さんの姿に重なります。

桜公園(ヤモウジ)避難小屋も地域の大人たちの子どもを守る愛情と熱意で完成しました。

もう一つの看板「コロナに負けるな!南郷小学校」も

南郷小学校の



子どもたちだけでなく、地域全体へ熱いメッセージとして作成されました。

コロナ禍の中、マスクを作成してくれた皆さん。毎週金曜日の読み聞かせボランティアの皆さん。米作り、らっきょう栽培で力を貸してくださる皆さん。そして毎日子どもを元気に送り出してくれるご家族の皆さん。

たくさんさんの愛情をいただきながら全校45名(女子18名・男子27名)教職員13名、今日も笑顔で元気に登校します。



◆教科担任制

本校では昨年度から教科担任制に取り組んでいます。教科担任制のメリットは①教科の専門性が高まり児童の学力が向上する②全教職員で全児童を育てるチーム支援体制が整う③教員のキャリアアップマネジメント力が向上するなどがあげられます。

昨年度は一部教科担任制でしたが、今年度は大幅に組織を改編し教科担任制として取組を推進しています。



小学校における教科担任制は新たな挑戦です。定期的な教科部会を開催し、教科の本質に迫る授業となるよう教員同士の学び合いを大切に行っています。また情報機器(タブレットなど)を積極的に活用し、児童が納得し新たな疑問が生まれる授業を探究しています。

◆ランドセルの花

一日の学習が終わるとランドセルを玄関に置き運動場にかけていく子どもたち。サッカー、木登り、虫取り、ブランコ、一輪車、鬼ごっこ...。それぞれが好きな遊びを友だちと一緒に楽しんでいます。しばらくして下校のチャイムが鳴ると、みんな名残惜しそうに帰っていきます。この笑顔を曇らせず心に灯をともしのが学校教育の原点です。

今後も、児童の主体性・多様性を尊重する人権教育を学校経営の根幹とし、一人ひとりの自己実現を図りながら新しい時代に必要なたくましい資質・能力を高める創意ある教育活動を展開します。

